

象徴のうた

平成という時代

永田 和宏

毎年恒例となっている「第32回全国豊かな生活を送る児童青少年の会」の歌である琉歌を、沖縄の人々にも、そして全国の人々にも知ってほしい、大切にしたいという願いからである。

この沖縄語は皇太子時代から教養の度目、即位後4度目のものであり、その歌である琉歌を、沖縄の人々にも、そして全国の人々にも知ってほしい、大切にしたいという願いからである。

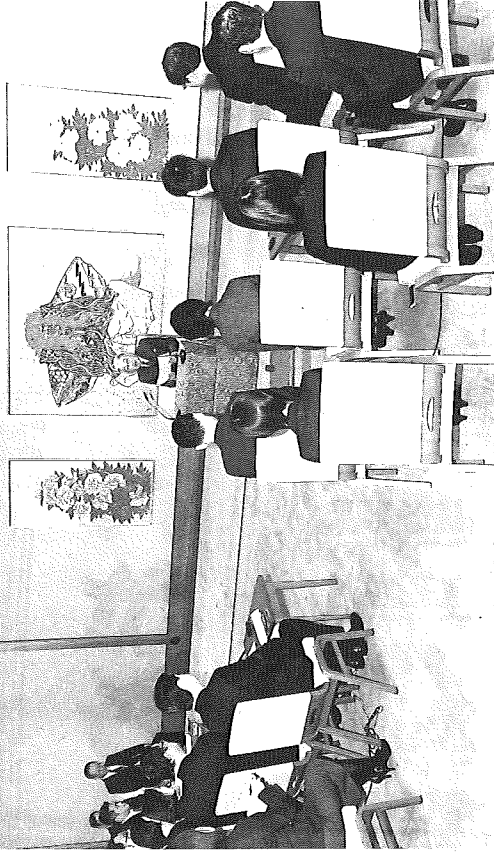
できたことは印象に残ることもあった。また、万座毛に書をしてのび巡り行はば彼方恩納さまやに立ちたり

天皇(平成25年)

どの広い草原と、琉球王朝の尚敏王が名づけたという。王が沖縄本島の恩納村を訪れたとき、当時の女流歌人、恩納なづが詠んだ「波の音もとまれ、風の音もとまれ、道皇天加那志

「日本全体の人が、喜んで、沖縄の人々の苦勞をして、顔を考えていく」といことが大事ではないかと思っています。地上戦であっては、大勢の人々が亡くなったことは、ほかの地域ではない

段々時がたつと忘れられていくということが心配されます。やはり、これまでの戦争で、沖縄の人々の被った災難というものは、日本人全体で分かち合うべき部分に、陛下の思いの程があるだろう。私たちも一度、そんな思いを共有したいもの



85歳の誕生日に先立ち記者会見される天皇陛下(12月20日、皇居・宮殿)(代表撮影)

文化

今春の代替わりを前に、平成時代の振り返りが盛んだ。報道という面からみると、朝御・日輪報道に始まり、竹屋やアエクニコーズに染まった中で終わろうとしているということになる。まわめて平面的であるが、すでに時代の巨匠とい

メディア時評

山田 健太

(1月)

また大きな課題となっている。メディアの過剰規制、社会全体の腐り状況が現出していたことなど。別の見方をすれば、マスメディアとりわけ新聞の社会的存在・影響力が一気に低下した30年間であった。日本国内の広告費や業界売

平成を振り返る

こうした傾向は、平成前半の10・15年間はほぼつきり認識されていなかったものの、いまに続く厳しいメディア批判の高まりを

思い返すならば、尊厳が確保に進行していたといえるだろう。そして21世紀に入ってから、表現の自由の縮減状況は法制度上にも、そして日常社会のなかでも

明確に表れるようになった。また同時に進行したデジタル化あるいはデジタル・ネットワーク化の流れは、情報の流れを一方から双方方向性に大きく転換するともに、だれもが容易に世界に向けて情報発信を

や一部の企業が膨大な個人情報を占有し、それを本人の知らないところで知らない形で利用することが一般化した30年でもあった。

表現の自由

そうした状況を、また記憶に新しい2018年の1年間を振り返ることで再確認し、新たな年、来るべき新時代の身の処し方を考えることしたい(響書は量要度と比例してはいない)。

情報の流れに変化

マスメディア 縮減進む

め、戦争ができる国作りが進んだ時代であった。それに伴う秘密保護法制や緊急事態法制の整備は、表現の自由の制限に直結するものであった。

③放送制度改革で官邸筋から民放廃止論も。関連して4K8K放送が始まるなかNHKは受信料値下げとネット本格進出決断。戦後すぐに確立した地上波中心

・NHK民放並立の放送制度が大きな転換点を迎えた。「公共メディア」とは何か

「日本全体の人が、喜んで、沖縄の人々の苦勞をして、顔を考えていく」といことが大事ではないかと思っています。地上戦であっては、大勢の人々が亡くなったことは、ほかの地域ではない

上高でみた場合、それまでの中核であった新聞業界の広告比率や産業規模が半減し、それに代わって台頭したのがインターネットであり、ちよとどいまその広告費が新聞を上回る状況にある。

の流れを示す。①政府公文書の隠蔽・改竄・廃棄の隠蔽し、平成は情報公開制度が各自治体に始まり国レベルでも整備され、政府と国民の間で情報の共有化が始まった時代であったが、その一方で官憲・政治家のなかではそれに抗して「記録を残さない」動きが弾まっている。

②憲法改正で緊急事態条項導入浮上、国民投票法ではM規制強化も。日本社会の「緩やかな合意、だが非戦に揺らぎが見え始

が問われている。④東京都でペイト規制条例成立。集会の事前規制も。関連して、新宿区で公園利用制限始まり。美濃子も規制

⑤消費税率軽減税率で新聞定期購読料は認められるも雑誌・書籍は棚上げ。平成

⑥性被害者の非公表・被害者の匿名化が一段と強まる。11犯罪被害者の保護名目と、社会全体のプライバシー意識の高まりを受け、新たな法制度が整備され、警察の匿名発露が広がる

⑦安倍純平さん解放を受け「自己責任論」再燃。単に危険地取材のありようにとどまらず、個人としてのジャーナリス活動、報道の社会的役割とは何かという

⑧沖繩県知事選で地元紙がアンケート実施。関連して、沖繩報道の温度差が対立。二オルタ

⑨テロ朝日のセクハラ告発がメディア内でも意識改革の端緒に。関連して、メディアの内「働き方改革」始まり。とりわけ女性の社会的地位の低さはいま

⑩民権総裁選で新聞各社に公平報道要請。放送行政を是れとして「公平性」を理由とした公権力の露骨な報道圧力が始まり。強まった

本欄の過去記事は、本紙ウェブサイトで読むことができます。

◇第1巻

石川直樹さん個人展

東京、まよつか

世界をフィールドに活

し、土門善賢や開高健

フクシマに輝いた

真実石川直樹さん(19

7)の個展「この星の

地図を尋ずる」が東京都

港区の東京オペラシ

ートギャラリーで1月2

おかし島にいた

お盆の日は鉢巻

ホーヤル工と歌

家々まわっていた

まわる家々庭々

鏡杖を手に踊る

シャンシャン

村の闇夜に響けた

道々辻々福木道

福木の枝にはく

島の祖霊も唄り来

歌に唾字を入れた

※ホーヤル工

念仏唄の一つ。小

の巻唄。

おおいし・なま

島生まれ。200

31回山王口巻唄。詩

年)など。

北極圏に生きる人々

した「POLAR」

配」と「これまでの戦争で

沖繩の人々の被った災難と

いっものは、日本人全体で

分かち合うべき部分

に陛下の思いの程がある

らう。私たちも一度

んな思いを共有したいもの